

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502101		
法人名	有限会社 ジューム		
事業所名	グループホーム なごみ春ヶ丘		
所在地	〒802-0803 福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘5番1号		093-931-5961
自己評価作成日	平成27年12月31日	評価結果確定日	平成28年02月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して12年目を迎え、地域・町内にしっかり根付くことができたように思えます。春ヶ丘の皆様には日々入居者様やスタッフにもお声をかけて頂き本当に感謝しております。内科・歯科・薬の医療体制にも力を入れ、しっかりとした連携をとっております。居室も全て南側に面しており、寒い季節でも晴れの日には、暖かな日差しが施設内を暖めてくれます。入居者様が一番の楽しみにしている食事にも気を配り、バランスの良い献立をたてるようにしています。時には入居者様のリクエストに応え献立に反映しております。入居者様お一人、お一人が少しでもご自宅ですごされている気持ちになれるようスタッフ一同接していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「なごみ春ヶ丘」は、小倉南区役所、消防署、警察、大学等に囲まれた住宅街の一角に1ユニット(定員9名)のグループホームである。利用者が慣れ親しんだ地域の中で、自分らしく生きがいのある暮らしを続けるために、地域の中に溶け込む交流を目指し、開設12年目を迎え、地域と相互交流が始まっている。毎週内科のかかりつけ医と、歯科医の往診体制が整い、看護師と介護職員が協力し利用者の健康状態をチェックし、「早期発見、早期治療」に繋げ、24時間充実した医療連携が行われている。また、職員が交代で作る愛情たっぷりの料理は、味や彩り、盛り付けや形状に拘り、利用者職員が、テーブルを囲んで一緒に食事をする様子は楽しそうで、ほとんど完食し、利用者の健康の源になっているグループホーム「なごみ春ヶ丘」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		093-582-0294
訪問調査日	平成28年02月03日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活に密着した「理念」を掲げており、職員一同しっかり理解し、仕事にいかしている。	ホーム独自の介護理念を玄関の見やすい場所に掲示し、職員全員が理念の意義を理解し、「ゆっくり、明るく、笑顔と共に」と示し、利用者の喜びと、満足を優先した介護サービスの提供に取り組んでいる。また、理念をパンフレットに明示し、家族や来訪者に説明し理解を得ている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より地域密着を踏まえ町内と接しており、多くの町内行事にも参加している。	開設12年目を迎え、地域との信頼関係は深く、利用者や職員は、地域の一員として町内の行事や活動に積極的に参加し、ホームの行事にも家族や地域の方が協力し、交流の輪が広がっている。また、独居老人の安否や介護相談を受け、頼りになるホームを目指している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの認知症についての問い合わせにも気軽に訪ねて頂けるよう日々努力している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	毎回多くの町内の方々に参加して頂いており、施設の日々の生活や活動を紹介し、助言や感想をサービス向上に活かしている。	会議は毎回地域の方の参加が多く、ホームの運営や取り組み、課題を報告し、参加委員から意見や要望が提案されている。また、地域の情報や問題点を取り上げ、地域の高齢化にホームとして、どのように関わっていくか等を話し合い、実現に向けた取り組みを行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小倉南統括からお預かりしている入居者様もおられる為、頻繁に役所からの訪問もあり、協力関係を築いている。	区役所の近くにホームがあるので、行政職員との関わりが日常的に行われ、情報交換し、連携体制が築かれている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解した上で情報や助言を受けて、ホーム運営に反映させている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全てにおいて施錠する事無く生活しており、身体拘束ゼロに取り組んでいる。	内部の研修会や職員会議の中で、身体拘束が利用者にも与える影響や具体的な禁止行為の事例を挙げて話し合い、職員全員が理解し、日常的な介護の中で、スピーチロックやドラッグロックを含めた拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。玄関の鍵は開放し、職員の見守りで自由に出入り出来る環境を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が互いに気を付け、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネ共に幾度となく研修を受けており、これを必要とする入居者様がいればすぐに支援できる。	外部の研修会に管理者とケアマネージャーが参加し、伝達研修の中で職員に説明し、制度の重要性を理解している。日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料を用意し、利用者や家族が制度を必要とする時には、管理者が、内容や申請方法を分かりやすく説明し、申請機関に紹介出来る体制が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者・ケアマネが時間をかけて十分な説明をしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは密にメールで近況報告をしており、意見や要望を運営推進会議で議題に掲げることもあり、十分に運営に活かしている。	職員は利用者と日常の会話の中から、思いや意向を把握し、家族面会や行事参加の時に、利用者の希望や健康状態、暮らし振りを詳しく報告し、家族から意見や要望、心配な事等を聴き取り、利用者の介護計画作成やホーム運営に活かせるように取り組んでいる。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談等、自由に発言できる環境づくりに努め、働きやすい職場作りに努力している。	職員会議や勉強会、毎日の申し送り時等の時に、職員の意見や要望、気になる事等を話し合い、出来ることから解決に向けて取り組んでいる。また、管理者が日常業務に携わっているため、職員とその都度話し合える環境を整え、働きやすい職場を目指している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の長所を活かし、発揮できる職場環境に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員と共に協力し、生き生きと発揮できるよう努力している。	職員の休憩室を用意し、休憩時間を交代で取り、勤務体制や希望休に柔軟に配慮し、気分転換を図りながら、介護に集中出来る環境を整えている。また、管理者は、職員一人ひとりの特技や能力を把握し、役割分担を適材適所に配置し、職員が生き生きと働きやすい就労環境である。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会やリアルタイムでの質問にも対応している。	利用者の人権を守る介護のあり方について、勉強会の中で職員同士で話し合い、利用者一人ひとりが持っている価値観や、生活習慣を尊重し、利用者が安心して暮らせる介護の実践に取り組んでいる。また、職員は常に理念を意識し、利用者のペースに合わせた支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さまざまな研修に参加しており職場にもいかしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社と、情報共有に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで管理者・ケアマネが面談を重ね、不安なく入居できるよう支援している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望を細かくヒアリングし、安心して頂けるように努力している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活や身体状況をよく伺い、主治医ともよく相談し、必要なサービスを見極め対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の何気ない会話にも耳を傾け介護に活かしている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は個々の入居者様のご家族との関係も十分把握しており、ご家族と共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、ご家族にくれぐれもお願いするところであり、協力して頂いてる。	ホームに入居することで、利用者が長年築いてきた人間関係や、地域社会との関わりが途切れないように、家族の協力を得て、友人、知人、親戚等の面会や馴染みの商店、食事処等の同行支援に取り組み、利用者が生きがいのある暮らしになるように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様がリビングで過ごされており、会話やテレビを楽しまれています。職員は支障がないように係わっている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者・ケアマネ共に関係を断ち切る事無く、ご家族とのコミュニケーションをとっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人、お一人と散歩に出かけた時や、入浴時に困った事はないか、要望はないか尋ね、職員間で共有し、希望、意向の把握に努めている。	職員は利用者と日常会話の中から思いや意向を聴き取り、家族と話し合い実現に向けて取り組んでいる。また、意思表示が困難な利用者には、家族に相談し、アセスメントを振り返り、職員が利用者に寄り添い、表情や目の動きを察知して、利用者の思いに近づいている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報やご家族からのヒアリングを十分に行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況に応じカンファを行い、個々の状態を把握している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の状態に応じ、ご家族及び主治医との連携を図りより良いプランの作成に努めている。	利用者や家族と話し合う機会を常に設け、意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で職員間で、前回の介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果と合わせて、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活観察を記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるかぎりご本人及びご家族の要望に応えられるよう柔軟な対応を心がけている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の能力に応じ新聞たみや廃品回収のお手伝いをして頂いている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問歯科週2・内科月2回以上の往診を受けており、24時間医療連携も行っている。利用者や医師との関係も良好で診療日を楽しみにしている。」	利用者や家族と入居時に話し合い、かかりつけ医と協力医療機関を選択してもらい、利用者や家族が安心して任せられる医療体制である。協力医療機関の月2回以上の往診と、週2回の訪問歯科を採り入れ、常に主治医と連携を図り、24時間充実した医療体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の日々の状態を看護師に伝えておりアドバイスや日々の健康管理に役立てている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関及びご家族と密に連携を図り、早期退院に向けて努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っており、ご家族とは早い段階で意思確認を慎重に行っている。	契約時に終末期の支援について利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と段階的に話し合い、今後の希望を聴き取り、方針を確認し、職員全員が方針を共有し、看取り介護に向けた準備を勧め、利用者や家族が安心して任せられる終末期の体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あわてず、日頃の訓練を活かし、自信を持って対応できるよう備えている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防及び地域の方々の協力で施設災害時、近隣災害時の対応を決めている。	消防署が近いので、年2回避難訓練を実施し、2階の利用者6人の一時避難場所を消防署と確認し、救助してもらえる連携が整っている。1階の3名の利用者は中庭に避難し地域の方の見守りをお願いし、利用者全員が安全に避難誘導出来る体制を整えている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮し、対応している。	理念に明示しているように、職員の明るい笑顔が、利用者の笑顔に繋がり、優しい言葉遣いや対応で、利用者の尊厳や権利を尊重した介護に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の記録の保管や職員の守秘義務については、管理者が職員と話し合い、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様個々の思いを把握し、自己決定できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の暮らしのペースで1日を楽しんで頂いている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度外部から理髪師に来て頂き、好みのカットをして頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたい物を聞き出す機会があればリクエストに応じ用意している。また、洗い物等職員と一緒にやっている。	利用者の嗜好を聞きながら、職員が交代で作る家庭料理は、利用者の楽しみなひと時であり、ご飯やおかずの出来上がる匂いに誘われて、利用者がリビングに集まり、楽しい食事が始まっている。食事の準備や片付けを利用者と職員と一緒にいき、利用者の力の発揮にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に日々管理記録しており、その方にあった支援をしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と相談しながら個々のケアをしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけや促しにより失敗なく安心して排泄ができるように支援している。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草を察知して、タイミング良くトイレ誘導を行い、失敗の少ない自立に向けた、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を行い、オムツやりハビリパンツの使用軽減に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し、医師の指示に従ってケアをしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のその日の体調を留意しながら支援している。また、血流の悪い方には足浴も行っている。	入浴は利用者の希望を優先し、その日の体調に配慮した入浴を支援し、肩までゆっくり浸かってもらい、職員と一对一の会話をしながら、楽しい入浴の時間である。また、入浴が困難な利用者には、足浴や清拭、シャワー浴を行い、無理のない入浴支援に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的や注意点を把握できるよう個々のカルテに記載している。また、生活習慣改善で服薬量の軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみを把握し支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩に出かけたり、車を使って季節を感じる場所に出かけたりしている。また、広い庭があるのでいつも外の空気には触れる事が出来る。	天気の良い日は利用者と職員が、住宅街にある庭の花を眺めながら散歩したり、買い物やドライブに出掛け、利用者の気分転換に取り組んでいる。また、ホームの中庭に出て、日本庭園を眺め、花の手入れや草取りをしながら、外気浴を行い、ゆったりとした時間を過ごしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に必要な物があれば職員と共に出かけご自分で選ぶ楽しみも支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便せんやはがきをお渡しし、対応している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存住宅を利用している為見慣れた環境であり初めて来られた時玄関での拒否は一度もない。庭もある為季節に応じた花も咲き楽しんで頂いている。	民家改造型のホームは、家庭的な雰囲気が漂い、リビングルームは狭いスペースであるが、そのことが利用者同士が仲良くなれる環境になっていて、仲の良い利用者同士の談笑が続き、職員とゲームやりハビリで盛り上がり、温かい雰囲気の共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えをするなどして気分転換できるようにしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた物等お持ちいただき安心して生活ができるようご家族と十分に相談し工夫している。	利用者が馴染みの筆筒や机、寝具や鏡、家族の写真等を自宅で生活するような雰囲気に配置し、利用者が毎日の暮らしの中で、不自由のないように配慮し、面会者もゆっくりと寛いでもらえるように、居心地の良い室内空間になっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮し、日々の自立した生活が送れるよう心掛けている。		